

2009年4月12日 WOC スプリント日本代表選考会（大阪府）

1月中旬、急遽飛び込んできた世界選手権代表選手選考レース。短期間での準備。そして当日の運営。緊迫の記録。

突然の打診

本件は、JOA強化委員会側から「近畿OL連絡会でどこか運営を引き受けてくれるところはないか？」との連絡会事務局への打診から始まり、その背景としては、強化委員長（当時）宮川氏の「選考会が、関東東海で行われることが圧倒的に多かったことの是正、全国的に日本のトップランナーの競技を見れる機会が提供できればよいのでは」という熱い思いがありました。

当初「この期に及んでなんで急遽関西でしたいねん。またJOAの勝手なごり押しかい」と思いました。連絡会参加の各クラブも大なり小なり同じような感想を持ったようでした。

当時大阪OLCとすれば、2月22日にウエスタンカップの開催4月26日には春の練習会を抱えており、通常では引き受けることなどありえないという状況でした。

大阪OLC立候補へ

その後上記の事情・思いとJOA側の「運営は原則的に引き受けてくれる主管者側ベースでOK。収益も全額を選手援助に当てる必要はない等」という条件提示が整理されるにおよび、純粹に考えて上記強化委員長の申し出、思いはもっともなことであり、可能ならこの機会を活用できるに越したことはないと考えなおし、日本代表選手の競技を真近に見る機会を提供することができるのなら、そして選考会の実態を尊重しつつも、運営において引き受け手の自由裁量が許されるのならという条件付で、大阪OLCが立候補しました。

当然クラブ内外では、WOC代表選手選考会という大役を大阪OLCが本当にできるのか？ そのなかで、選考会を組織的に運営するため阪本博さんが実行委員長を名乗り出てくださったことは、その後のJOA側との打ち合わせ、コースプランニングにおける現地トレイン情報、地図の修整等においておおいに助かることとなりました。彼がいなければこの選考会はここまでできたかどうか分かりません。というほど、実は引き受

けてからJOA側との折衝事項や課題が多くあったのです。

トレイン変更！

当初トレインは、ウエスタンカップ開催直後ではあるものの錦織公園が予定されておりました。これも大阪 OLC が引き受け可能と回答できた大きな要因です。（JOA 側からは、今年の WOC スプリントは山トレインなので、山がちな公園でもOKと了解をいただいております）直前に開催しているのですから運営もしやすいというものです。

ところが、そんなに現実には甘くないようで、結局は予備として提案していた「服部緑地」に変更となりました。

そうなると会場設定・配置、地図の修正等まったくの1からの準備に近い状態になりました。また待機エリアとそこの中への参加者の囲い込みという概念は恥ずかしながら大阪 OLC 側では持ち合わせていませんでしたのでこれも理解と現実対応に時間がかかりました。

またプログラム関係にしても、個人的には、これまでの選考会のを参考にしたらよいとたかをくくっていましたが、選考レースが、午前と午後の2本。それにともなう会場のエリア制限、そして計算センター、本部・受付、スタート・フィニッシュ、そして待機エリアといったものがすべて分散していること、さらには、今回選考会の邪魔にならないように一般ランナーの参加と競技の見学・観戦、初心者OL体験そして公園という特殊な環境等々を盛りこんで考案し、参加者に伝達しなければならぬ内容が多く、阪本さんのように運営全般に目を渡せる人がこの行事に専属してくれる人がいなければ、当日はあれほどうまく機能できなかったと思います。

花見客で賑わう公園

最後に当日が近づくにしたがって心配になっていったのは、公園利用の一般入園者との接触等のトラブルでした。今年は桜の開花が例年にならぬ状態で、花見客の場所取りとコントロール設置場所との関係も微妙なものでした。

当日は関東からの応援者（JOA側からの依頼）も得て、競技に支障の出ないよう随時必要に応じて、トレイン内、特にコントロール付近を巡回して

もらいましたが、今思い出してもぞっとするほどの人出で、よく成立できたものであると思います。それでもコントロール撤収時には、家族連れのお父さんから、砂埃をたてて自分たちの近くを走り抜けていく不快感、子供たちとの接触の危険性を鋭く指摘されてしまいました。残念ながらやはり人出の多い時期の公園でのオリエンテーリングは差し控えたほうが無難なようです。

基本を押さえて

WOC 選考会といえども、基本は同じ、決められたところにコントロールを設置し、決められたスタート時間に競技者をスタートさせ、フィニッシュ後は計算処理を間違わずにおこなう。これだけのこと。とあって臨みましたが、ここまで書いてきたように、振り返ってみると大小いろいろなことが発生し、それをみんなで協力し、知恵を出し合っただけでクリアしていきなんとか成功させることができました。コントロール講習会で言われている「mail is most important tool」まさしくそうでした。

メールのおかげで、コースのチェック、現地トレイン問題箇所の指摘、そして運営全般にわたる確認が、担当者が遠方においても可能なことが実感できました。（しかしメールはその分、文章表現力、読解力が必要で、中身の意味の確認には正直言って非常に疲れました）

そのほかにもOCAD操作（地図作成ソフト）、MULKA（成績処理ソフト）処理等効率的な運営にはある程度の運営能力そしてそれらを統括していく力は必要なのですが、熱意、問題意識があれば、選考会の運営も夢でないことが証明されたようにも思います。

貴重な体験

今回、競技的に強くないクラブであっても、役員人数は増えるかもしれませんが、決められたことを決められたとおりにこなす。この基本が実践できれば、緊張はするがそれは良い結果をもたらす緊張であり、こういった経験機会が各地でふえて、大会運営のレベルアップ、そして競技者の競技能力の向上に役立てば、こんなすばらしいことはないと思えました。

（野澤建央）